



まーぶる通信

2016年1月13日

発行者 福富 恵美子／編集者 高田 一範

法テ615-0882 京都市右京区西京極葛野町 39 番地

TEL 075-874-5639 (代表・居宅) 075-874-5617 (デイ・ショート) FAX 075-874-5640 (共通)

人E-mail: marble.2009@room.ocn.ne.jp

法テ604-8411 京都市中京区聚楽廻南町 8-21 TEL 075-748-0220 FAX 075-748-0221

人E-mail: nijo@marble2009.org

ホームページ: <http://www.marble2009.org> Facebook: <http://fb.com/465262290180944>



新しい年のごあいさつを申し上げます

理事長 福富恵美子

今年の冬は少し暖かいようで、まーぶる利用者さんたち、子どもたちもちょっとほっとしています。

皆様はどんなお正月をお迎えでしょうか？

まーぶるは昨年12月9日、法人設立5周年を迎えました。

12月13日に5周年記念事業を行いました。とっても盛りだくさんな内容で、10:00から16:30という長時間のイベントでしたが、本当にたくさんの方に来場いただき、とても中身の濃い時間となりましたこと、皆様に感謝いたします。

イベントに関しては、後の記事に詳しくあげることといたします。

さて、昨年6月に、重症心身障がい児放課後等デイサービス『まーぶるにじょう』を開設しました。設立以来ずっと西京極を拠点として活動しておりましたが、今回、「中京区聚楽廻南町」に事業所を持つこととなりました。約半年、重度の障がいとともにある子どもと過ごす中で、これまでにあまり知らなかった、「教育」の課題にもいろいろと気づかされ、驚かされることも多々あります。西京極の大人の利用者さん達の中には「子どものときはどんな暮らしをして、どんな育ちをしてきたのかな？」と気になる方も居られました。子どもの様子を見て、改めて、大人の人たちを見ると、ただのお手伝いではない“本当の支援”をどうやって行ったらいいのかというヒントをもらえます。

2カ所の事業所がうまく連携していくことで、ご本人さん達、ご家族に対してだけでなく、スタッフ、事業所にとってもよい相乗効果が現れるようにして参りたいと思います。

新しい年、世情はどんどん厳しくなっています。障害者年金の支給決定も見直しが言われています。そんななかでも、まーぶるは、「人権」にこだわって、みんながご機嫌に暮らせることを目指して、今年もしっかり進んでいきたいと思っています。

なにとぞよろしくお願いいたします。





まーぶる創立5周年記念事業

みなさま本当にありがとうございました！

昨年12月13日、お隣の京都光華女子大学協賛のもと、大学を会場にしてまーぶる創立5周年記念事業として、ドキュメンタリー映画「ぼくは写真で世界とつながる〜祐二22歳〜」「普通に生きる」の上映と chiharu ミニライブ、中山千夏さんとのお話し会&米田祐二写真展〜それぞれの「いのち」〜を行いました。

5周年イベントは、「なにかしたほうがいいのかなあ？」とおぼろげに考えていた2014年9月、伊丹市のしえあーどさんへ、伊丹フォーラムに行ったときに、



貞末さん(映画制作者)にふと言った事に対して、「そりゃやった方がいいよ。10周年になったら、もう、創立当時の思いや理念が薄れていたりするから・・・立ち上げ当初の理念を再確認しながらやっていくためにもやったほうがいい」といわれたことが強い後押しになっています。

それから2014年11月にぼくつなの篠山上映会に立林主任と一緒にいき、映画を見て、夜、みなさんとお話をし、だんだん固まってきました。

そして、2015年10月。“やらねばー”で、スタート。

計画当初、中山千夏さんとのお話し会という提案をしたら、スタッフみんなが「?・・・」そう、中山さんを知らない!で、「じゃリン子チエのチエちゃんの声!」

といったら、半分くらいの方が「ああ!」でも、残りの半分の方はやっぱり「・・・」

そして、「なんでチエちゃんがまーぶるの5周年???」

ジェネレーションギャップを感じつつ・・・(私は参議院選挙に当選して、すごい熱気の中での当選の喜びインタビューのテレビ画面を覚えてます)

いろいろ解説を行い、よくわからないけど、納得?の中で始めました。

準備が始まってしばらくはなかなか盛り上がってない感じでしたが、日が迫ってくるとスタッフ皆さんがどんどん、やっていってくれ、楽しんで準備をしてくれていたこともとっても嬉しかったです。

そして、迎えた当日。

開場の9:30よりも前からお客様が到着されはじめ、しばらくロビーでおまちいただくことになったり・・・





来てくださった方々の感想などは、あとのアンケートからの記事に任せますが・・・

2本の映画はそれぞれ障がいとともにある方のことを取り上げていますが、少し違った角度で見ていただけたようです。

銀行員のある方は「普通に生きる」をご覧になって、「今まで全く知らなかった世界、暮らしをしている人がいる。重度の障がいのある人とその家族の思い・・・子どもが居て「死にたい」って思うということがとっても衝撃でした。」と、本当にしみじみとおっしゃっていました。(ちなみに上映会から4日後)

中山さんとのお話会は、「シャッキ！といわれて、堂々と、いやなものはいや！本当にきもちよかった」と。また、光華女子大学の佐々木勝一先生のお話は「とってもよくわかった」というお声をいただけてます。

福富は相変わらずの、ぶっつけ本番出たとこ勝負のお話で、進行を兼ねているにもかかわらず、まとめ上げられないままでしたが、そこは中山さん、テレビでの経験が生きておられます。ぴったり予定の16:30に、しっかりまとめて終わらせてくださいました。



まーぶるがパンフレットにもかかっている「人権」(HumanRights) この言葉の誕生から、日本語訳されたときの時代背景、言葉の本当の意味。“HumanRights”とは、「人として正しい」ということ。権利と義務をセットで語られる(それはほとんど権力側が語るとき)べき物ではないもの。だから、「嫌な物は嫌、正しいと思うことは正しい」とみんながしっかり堂々と声を出して言うべき。と、熱く語っていただきました。

みんながご機嫌に暮らしたいところでくらすには、みんなと一緒にではなく、

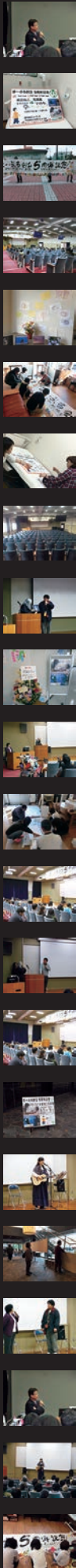


みんな違う、みんな“変”でいい。とってもエネルギーもらえるお話でした。

そして、はるばる宮城県名取市から貞末プロデューサーと黄色のランボルギーニ(笑)にのってやってきてくださった、chiharuさんの透明でとってもやさしい声の歌に癒やされました。

当日は、まーぶるを退職された元スタッフも何人もきてくれて、また、当日どうしてもこれないから、と前日にたずねて来てくれた方もおられ、まーぶるの今は、本当にたくさんの人に支えられているんだ。と再確認し、ありがたいと思うと同時に、その重みをしっかり感じつつこれからを歩んでいきたいと思います。

ありがとうございました。



5周年イベントアンケート

皆様のご協力のもと盛大に、そして無事に終えることができた5周年記念。
当団、皆様にいただきました感想を一部ではありますが、掲載させていただきます。
遠方よりお越しいただいた皆様、多くのご支援をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

「ぼくつな」の感想

- ・ご本人の意思を尊重することの大切さを再確認できました。
- ・祐二さんの写真、表情がすばらしかった。
- ・お兄さんの声を入れていたことがよかった。
- ・温かい人達に出会い、様々なことに挑戦され、祐二さんが頑張る姿、良かったです。言葉かけなど勉強になりました。

chiharu ミニコンサートについて

- ・優しい声がとても良かったです。
- ・いやされました。素敵な歌、歌声でした。
- ・すずやかなきれいな声で、青空にマッチしており、本当に涙がでできそうでした。

「普通に生きる」 の感想

- ・見応えありました。
- ・普通とは何か？普通とは誰が決めたのだろうと考えています。自分らしく生きることを考えながら生活するように。
- ・半分強見せてもらうことができました。親御さんの想いや頑張りや行動力に頭が下がる思いでした。いい勉強になりました。

中山千夏さんとの お話会について

- ・きびしいはなしになっていきますね・・・
人権の主源の話が印象に残りました。

米田祐二さんの 写真展について

- ・ホントにいい写真でした。
- ・純粋な心が写真を通して見えた気がしました。
うちの息子がはまってずっと見てました。
- ・何か心に伝わる写真でした。

全体を通しての ご意見ご感想

- ・中身たっぷり。それぞれ濃い中身でたくさん学ばせてもらいました。
- ・また、次回もこのようなイベントがあればぜひ参加させていただきたいです。